

# ●亞細亞大学



## キャリア形成支援への取り組み —新入生キャリアガイダンスについて—



亞細亞大学キャリアセンター

部長 岩崎孝二

新入生キャリアガイダンスの実施については、ゼミの授業計画（半期13回）をたてる際、各学部に「キャリアガイダンス」の時間を設けるよう、キャリア委員会を通して働きかけており、各学部と日程の調整をして実施される。内容は、なりたい自分に対するためのデザインを描かせ、豊かな学生生活を送つて、就職年次には自らの力で職業選択ができるよう支援している。

### 2 キャリア支援

#### 3つのガイドライン

新入生キャリアガイダンスで使う「CDG-I」は3つのガイドラインに基づいて制作した「読み物」と「ワーク」から構成するガイドブックである。本学の低学年向けキャリア教育には、「自己認識」「職業探索」「キャリアデザイン」の三つの柱がある。学生が自ら

平成17年度から、これまでの就職支援からキャリア支援へ全学的に移行し、4年一貫のキャリア支援を目的に「低学年用キャリア「デザインガイドI（以下CDG-Iといふ）」の制作、「アセスメントを活用したガイダンス」などを導入し、平成17年度から全学的に新入生キャリアガイダンスを実施している。ここでは、新入生キャリアガイダンスの実施内容・場面とガイダンスで活用している「キャリア「デザインガイドI」のコンテンツの一部を紹介する。

### 1 新入生キャリアガイダンスの実施について

新入生キャリアガイダンスの実施については、ゼミの授業計画（半期13回）をたてる際、各学部に「キャリアガイダンス」の時間を設けるよう、キャリア委員会を通して働きかけており、各学部と日程の調整をして実施される。内容は、なりたい自分に対するためのデザインを描かせ、豊かな学生生活を送つて、就職年次には自らの力で職業選択ができるよう支援している。

- ◆ **I 職業生活のグラフとデザインを描こう**  
◆ **II 自分史をフィードワークしよう**  
◆ **III 誌上特別ゼミナール：大学生活のたいこと**  
◆ **IV 就職決定者座談会：1年生に伝えたいこと**  
◆ **V 誌上特別ゼミナール：大学生活のグラフ「デザイン」で何が違う?**  
◆ **VI 自分史をフィードワークしよう**  
◆ **VII 誌上特別ゼミナール：ありのままの自分、その「価値」って何だらう?**  
◆ **VIII 自分史フィードワーク：幼少時から高校までを振り返って、その先を計画する。**

- ◆ **III 職業学入門**
  - ◆ **Ⅰ 誌上特別ゼミナール：仕事って、働くって何だらう?**
  - ◆ **Ⅱ 図解・仕事パノラマ：総合スーパーの巻**
    - ◆ **Ⅲ 市場の巻**
  - ◆ **Ⅳ 低学年向けワークの例**
  - ◆ **Ⅴ 大学生活やりたいことチェック**

- ◆ **IV 新入生・低学年キャリアガイダンスの場面**
  - ◆ **①基礎演習・オリエンテーションゼミ**  
CDG-Iを使用して授業を行つ。  
◆ **②アセスメントを活用したガイダンス**  
自己認識と職業探索の補助資料としている。
  - ◆ **③新入生個人面談週間**  
新入生キャリアガイダンス後に実施
  - ◆ **④低学年キャリア講演会**  
ヤリア専門家に依頼し、「キャリア講演会」を実施
- ◆ **5 チャート：五つのカテゴリーから**  
チャート
- ◆ **6 バリュー・ゲーム**  
自分の価値観を把握するのに役立つゲーム
- ◆ **7 ライフスタイルの明確化**  
望む生き方
- ◆ **8 インプレッショント・ゲーム**  
他人からみた自分像を知るために役立つ
- ◆ **9 ジョブ・インタビュー**  
両親や知人に聞いてみよう
- ◆ **10 職業マッチングチェック・チャート**  
監修：日本衛生心理学会理事長臨床心理士高塚雄介

# キャリアセンターで学生に伝えていること



法政大学キャリアセンター長

**藤村博之**



●法政大学

法政大学キャリアセンターは、2005年4月の発足から4年を迎えた。この4年間は、試行錯誤の連續であった。

キャリア教育という言葉がよく使われる。使う人によって意味が異なるが、筆者は、「学生の職業観を育て、

人生の中で仕事をどう位置づけるかに

ついて、それぞれの学生が自分の頭で

考えられるようになること」だと思つ

ている。仕事は人生の一部であつて、

すべてではない。しかし、重要な意味

を持つた部分である。それゆえ、キャ

リアセンターにとって、就職支援は

重要な活動領域だ。しかし、それだけ

では旧来の就職部と同じになってしま

う。そこで、本センターでは、大学教

育の正式カリキュラムにキャリアデザイン科目を設置するよう教学サイドに

働きかけるとともに、1年生から4年

生までを対象とした研修プログラムを作成して、提供してきた。

キャリアデザイン科目とは、大学

入学直後の1年生に対して、大学で学

ぶことの意味、人生のあり方、働くこ

との意義などについて考える講義であ

る。教員による講義だけでなく、先輩

を招いて仕事について話をしてもらつ

たり、グループディスカッションによつて学生相互の考え方を共有したり

して、さまざまな角度から人生と仕事

を考えるように工夫している。

研修プログラムは多彩である。自己理解を促す講座や適性を知るための講座、卒業生を招いての職種研究、インターネット・シンク、社会人とのグループディ

スカッションなど、毎日のように何らかの企画を打つてきた。これらの企画を通して、学生に何を伝えなければならぬのか、キャリアセンターとしてどのような役割を果たさなければならぬのかがおぼろげながら見えてきた。

## 1 世の中に元々おもしろい仕事をしないことをわからせる

最近の若者は、生まれたときから多くの玩具やゲームに囲まれ、何か手にとつて試してみて、おもしろくなれば捨てて次を探すという遊び方をしてきた。これが仕事選びにも影響を及ぼしている。彼らの大半は、世の中のどこかに「おもしろい仕事」があつて、それに巡り会おうとしている。就職活動において100社以上の会社にエンタリーし、会社訪問を繰り返しているのは、その表れである。

通常、おもしろいものはお金を払つて買つてくる。しかし、仕事は、お金をもらつてするものである。おもしろいはずがない。顧客は理不尽なことを要求してくれるし、上司もしばしば矛盾したことを平氣で指示する。それに耐えて、ある課題を達成するから、給料がもらえるのである。世の中の現実を知らせることが第一歩である。

## 2 仕事をおもしろくするのには自分自身であることをわからせる

仕事をしていると、つらいことの連續である。95%はつらいことだと言つてもいいくらいだ。でも、5%くらい、「働いていて良かつた」と思える瞬間がある。お客様から感謝され

## 3 常に新しいことに挑戦しないかないと能力は向上しない

私たちの職業生涯は45年続く。その間、ずっと第一線で活躍し続けるには、常に能力を磨いておかなければならぬ。能力を陳腐化させないためには、新しいことに挑戦し続けることが重要である。大学を出てから、本当の勉強が始まる。その基礎を作るのが大学での4年間である。



以上の3点を講義や研修プログラムで強調するようにしている。自分の頭で考え、自らの足で立つて行動する人材になるよう支援することがキャリアセンターの使命である。